

真田山旧陸軍墓地を訪れて

椎田 多喜男

軍用墓地、ご存知ですか

明治の初期、軍隊結成とともに、各地に陸海軍の墓地が、つくられました。陸軍だけでも、80ヶ所以上あったそうです。実はは、あまり知られていませんが、地下鉄の玉造駅の近くに、今までも、ほぼ当時のままで保存されている、国内最大の旧真田山陸軍墓地があります。

真田丸で有名な、三光神社の近くにあり、約5100もの墓標が、並んでいます。万灯会や慰霊祭の時以外は、訪れる人もすくなく、保存状態も、良くはありません。

意外に思われるかもしれませんが、この墓地に葬られている方々は、戦死された方で引き取り手のない方だけでなく、事故や病気などで亡くなられ引き取り手のない方々や、またドイツや清国兵士捕虜、従軍した軍役夫の方々の墓標も多数あります。色んな形で、戦争に関わった方々の墓標があるのです。

戦死者が増える満州事変以降は、合葬墓に変わり、戦死者が激増する昭和19～20年頃の遺骨を集め納める納骨堂が作られ、そこには8200人以上の遺骨があります。その骨壺には、何もはっていないものもあり、戦争の厳しさを、感じざるをえません。

そんなこともあって、あまり人が訪れることのない時期に、真田山に、ふらりと、訪ねることがあります。この日は、平和学習のために訪れた学生や、お墓を掃除されている町内会のご婦人が、おられました。

わたしは、1945年6月の大阪空襲で、破壊された墓石を集めた一角に、いつも参るようにしています。静かに眠るべき墓石が、破損し砕け集められている様に、いくさの無情を感じるからです。

間もなく、忘れされつつある、開戦の日(12月8日)がやってきます。アジア太平洋戦争で、1944年以降、戦死や病死、餓死する兵士が増えています。敗戦が色濃くなってから、特攻やより無謀な作戦が繰り返され、多数の若者の命が奪われました。

戦争は、起こさないように努力することは当然ですが、終わらせる努力がより大切であることを、忘れたくないものです。

